

第20回アルコール健康障害対策関係者会議

産業保健・企業の取組み

産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学
産業医実務研修センター

廣 尚典



職場におけるアルコール問題対策の意義

- 20～60代の成人が多く時間を過ごす場所である
 - 女性の該当者も増えている
 - メッセージが届きやすい
- 仕事がらみの飲酒機会も多い
- 職場（仕事）は不適切な飲酒の助長因子にも抑止因子にもなる
- 退職しない限り、フォローアップが容易である



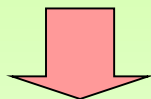
従来の職場におけるアルコール問題対策

- アルコール性健康障害を有する労働者の職場復帰支援
 - 好条件が揃う必要，早期の受療が前提
- 依存症の事例化例への対応
 - 早期に健康管理部門につながらない
 - 早期に専門医療機関につなげられない
 - 家族との連携が難しい
- 不適切な飲酒に関する健康教育，保健指導
 - 小集団教育・・・酒害の啓発，生活習慣病対策
 - 健診後の保健指導
 - 担当者の熱意，問題意識，知識，技術による



アルコール依存症者の職場復帰支援

- 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」
(厚生労働省, 2004)



- 「アルコール依存症例の職場復帰支援マニュアル」
 - アルコール依存症例に関して、産業保健スタッフが特に注意を要する点を解説
 - 復職を検討するための前提事項、本人に対し強調されるべき事項、上司等の職場関係者に伝えられるべき事項、就業面の配慮のあり方、主治医、親族との連携内容、復職後の支援のあり方など
- 復職ガイダンス活用ハンドブック（日本産業衛生学会関東地方会）



アルコール依存症者の職場復帰支援

健康問題（特に、精神面）の問題により休業した労働者の円滑な職場復帰，職場再適応には，医療機関（主治医）と職場（産業保健職）連携が重要

- 主治医は，病状の回復度を評価
- 職場は，業務遂行性を評価

職場と医療の連携モデルが必要



職場におけるアルコール依存例への介入の原則

- 関係者（人事，職制，産業医，看護職など）間の入念な打合せ（役割分担の意思統一）
- 家族との連携（協力依頼）
- 具体的な問題のリストアップ
- 直面化と本人による選択
- 治療後の受け入れ体制の確認
- 専門医との連携
- 共感と毅然とした支援

治療のパラダイムが変化することで、変わるか？

問い合わせ，連絡は慎重を要する

断酒の意思が明確でないと受け入れてもらえない



職場における不適切な飲酒への個別介入の機会

- 健康診断後の保健指導
- 特定保健指導*
- 随時の健康相談
- ストレスチェック制度における高ストレス者の面接指導他
- 長時間労働者の面接指導他
- トータル・ヘルスプロモーション・プラン（THP）における産業保健指導，メンタルヘルスケア（心理相談）

*を除き，実施主体は，事業者（会社）



職場における健康管理

- 事業者を実施義務
- 主として、労働安全衛生法規により規定
 - 健康診断、ストレスチェック…
- 健康診断は、「ミニ人間ドック」とは異なる
 - 結果（×生データ）を事業者が確認
 - 項目も規定されている
 - 法定外の項目を実施する際には、労働者の承諾が必要
- 職場は医療の場ではない
- 家族との連携が困難である場合が少なくない

枠組みを踏まえたうえで、
どのようなことができるかを検討する



職場における介入の試みの意義と留意点

- フォローアップが容易
 - 脱落者が少ない
 - 丁寧な観察が可能
- 様々な規模の集団が対象にできる
 - 必要な介入の工数なども推定できる
- 好事例を水平展開しやすい
 - 仕掛けが必要

他方,

- 対象者が比較的均一となる
 - 年齢, 生活水準, 健康観, 価値観…
- 他の産業保健活動との優先順位について検討を要する



最近の産業保健の話題

- 過重労働対策
 - 働き方改革関連法
 - ワーク・ライフ・バランス
- 治療と仕事の両立支援
- ストレスチェック制度
 - セルフケアへの支援
 - 高ストレス者に対する面接指導
- 健康経営
 - 資源としての健康
- メンタルヘルス不調の高止まり
 - アルコール問題の併存
- アブセンティズムからプレゼンティズムへ



第1期アルコール健康障害対策推進基本計画 (基本的施策等) から

- 職場教育
 - 対・交通労働災害
- 広報・啓発
 - アルコールによる健康障害・社会問題
- 医療機関と産業保健スタッフの連携強化
 - 産業保健活動総合支援事業による産業保健スタッフの研修
- アルコール依存症の当事者の休職からの復職・継続就労支援
 - 「精神・発達障害者しごとサポーター」を養成
 - 地域障害者職業センターのリワーク支援



まとめ

アルコール健康障害対策の実効を高めるに、

- 産業保健との連携も重要である
- 産業保健は、特有の枠組みが存在する
- アルコール医療，一般医療，地域保健と産業保健の相互理解の推進が望まれる
- 産業保健は，モデル事業の一部を担いうる

